



2025年8月1日〜8月31日分

未来式

金粉短詩系文藝ショー

復活公園⑥

ガウガウガウー私の名前はただの、イヌ。イヌにはイヌの短詩系。どんなところに属していても、どんなものを擦していても、どんなものを望んでいても、我には相応しいものと、相応しくない者とかびつたりと分される。それは悲しいことか嬉しくないことか分らない。分かる、分からないという問題ではない。問題があるのは純粹幻想。純粹なものだけが生き残るという幻想。それが一番間違っている。間違っているから幻想である。幻想であるから脆い。脆いから表面には出てこないののである。ガウガウガウー世界でもっともつまらないものを、と問えば、それがこれだ、と答えたい。世界の底辺を指摘せ、底辺。嵐の日に限って、台風が来る、とマダムきやりこが言っていたような、いないような。それも幻想かいや、それは幻想は幻想でもどこか愉快な、不思議な愛の物語だろう。ガウー囁むぞっ！

8月1日（金曜）分

■短歌

動物の本能よりも大切な爆動を見に何時間待つ

■俳句

そら寒き思いもてゆけり日照り道

夏の日おれば冷え冷えとあるいていた

冷え冷えと歩いて帰る夏の日に

花盛りなることを知る氷室

氷室の中に花が咲いているとは

サーモグラフィに映りたる我の色

熱画像表記装置に「示されし我はまじ真紅

熱画像表記装置に映る我まじ真紅

サーモグラフィ

熱画像表記装置の我まじ黒髪酒

わあ、氷室の中に花が咲いている

かき氷サーモメータで追跡す

父のゐて天道虫虫に乗り給ふ

■川柳

ノルウェーの森の聖地巡礼です

選挙中お漏らしたのがバレていた

選挙中お味見したのもばれていた

旅行中行方不明になり帰宅

それなのに帰らぬ人とはこれいかに

誰よりも実力のあるおいらです

そんなもの木っ端微塵にしてしまえ

緑地公園に住んでいる動物みたいな俺

電車おり階段降りて走り出す

また雨たおいら世紀の雨男

8月2日（土曜）分

■短歌

プールから上がったみたいに濡れた髪乾かしている君の横顔

■俳句

天牛の首落ちる間に時は過ぎ

■川柳

元気が出るものというお題にて2句

元気が出るものは死との距離を知ること他ならない。死との距離

まだあるようでいても全くないようでいて、定まらない。その定まら

なさを唯一の頼りにして生きているわたしは、どうしようもない存在

のように思えるが、事実どうしようもない存在でしかない。

死を待ちている間に力溜まる朝

石膏で固めたものの中におれ

「長い」のお題にて2句

「長い」とはびびりつつもな。長かったことな何もなく、さりとて

短かったことも殆どない。長さ短さを口に出した時すでに、自分自身

がその範疇の中にすっぽりと納まっている。そこから抜け出すためには、どうやってであつても、そういう余分なことを考えないことだ。また自分では考えないでいたとしても考えることを余儀なくされることもある。そのような時は、相手と縁をきるべからう。

長さなど言えるまでに五年夢る

長短を問わず和音を愛してる

魅力なき日の午後雨が降ることもなく

計画罫れになった人生だがそれも計画のうち

一家離散という電撃のようなドラマの言葉

天国はどこにあるのでしよう 一体天国があるはずばどこに

硝子のコップが割れたことによつて硝子だ

つたと分かる

愛人となるべき人の運命

8月3日（日曜）分

■短歌

これ持つて家から電車できましたと大きな扇風機を君に贈き

■俳句

夏の旅バスにも足にも電車にも

■川柳

大雨が降る時にこそ俺の傘

冷房で冷えた体がぼかぼかと

酒臭い息の親父のうつバクチ

これ以上冷えたら氷になりましよう

ミニスカート履いてるだけで可愛いかな？

頭から抑えてない日のおみおつけ

童貞域行ってきた人の記録読む

アナウンスきんきん声で聞こえない

少しずつ調子が出てきて危ないね

ヘッドギアつけてないのにどつかれる

8月4日（月曜）分

■短歌

ユニオンという名の喫茶店におりし日の闘争のことを夢見する

■俳句

海月とちとして君には会いたくて

■川柳

くいな橋という駅の名前の華やかで

10回に1回は君が負けますね

大雨の日には僕が外に出る

息止めて潜つていれば雨降らず

もぐもぐと口を動かすふりをする

歌うように俳句を作る人がいる

りんごパンがじつて鹽基に血がついた

夕焼けの野原はどこにもありません

奥ゆかしい人の言葉に聞き惚れる

JRなんて言ったら怒られますね

8月5日(火曜)分

■短歌

オレンジとバナナとメロンとパイナップルそれだけを食べそれだけを食へ

■俳句

別れたる日の美しき浴衣かな

■川柳

エレベーターの前でも上でも斜めでも

歌歌おうもつと歌おう一緒なら

ちよつとそれ大きすぎやしませんか

目を閉じている間にキス奪われて

追いかけて髪引つ張つて取り返す

体重を測ることもなく測るのともなく

ウィンドウに映るのヤエモトラ

とち狂い垂直方向を実施する

そんなのは知らないうちが花ですよ

身長の問題をするなど言つただろう

8月6日(水曜)分

■短歌

立ち止まることのなかった僕だけが今立ち止まる炎天の道

■俳句

入道雲纏いてそのまま浴槽へ

■川柳

秘密なぞない人だから好きなのに

秘密なぞない人なんていやしません

もののけのお供みたいな君が好き

この先もやつてくつもありはあるんですか

ここへ来てくんと楽しくなつてきた

巨峰食 その根性を認めよう

サウダー求めておくこのままで

グツとくるその言い方と目の虚ろ

じゅんじゅんとれんれんつて誰友達の？

やればやるほどうまくなつてくるか？

8月7日(木曜)分

■短歌

この先の交差点曲がったところなら浜辺があつても全然いいのに

■俳句

蟻の子を助けた午後物語

■川柳

エレベーターだけが持っているという矛盾

いつまでもこない電車に乗っている

その後の事を問うならもう会わん！

むくむくと湧き上がる雲君の肉

河原町にはジュリーがいる

黒いのが特機たろうトンネルの

茶髪女子どこまで行つても茶髪女子

お母さんみたいな娘さんみたいなおばあさん

ラムネ 飲みながら走ると危ない

特急に乗つて行くからさようなら

8月8日(金曜)分

■短歌

意地という言葉を書き紙に書いて食べ受腹に受かった伝説を聞く

■俳句

あの午後に西瓜ジュースを飲んだ理由

■川柳

終点で降りるとはどういうことだ

言つただけは言つてみる権利は誰にでも

人は死ぬこともある死なぬことも

手が震え始めたならば本物だ

横にいるやつはあの時のきみ！

裸じゃないかその格好はまるで

そんなこと言ふなよ泣けてくるぜ

太すぎるウエスト太すぎる二の腕

キレキレのダンスの向こうに息の音

透明な服を着て君現れた

8月9日(土曜)分

■短歌

国政治療経済ポトトギス君が受け入れないものは何？

■俳句

万緑の中に一点君の色

■川柳

やるなとお前超スピード狂だね狂つてる

長い髪のらららに合わせてギター弾く

夏の日の水柱は相対死の双眸

ここまでにやりたいことが極まった

タバコ吸う音がするなら認めてる

北上川の上流から何か流れてくる

タロットで見れば全てをお見通し

膝の上に重い女が座つてる

霊媒師と一緒に裏の居酒屋へ

潮吹いているならそれで構わない

8月10日(日曜)分

■短歌

国鉄で来たのとふいに言いかけてちよつと知らんぷりされていや

■俳句

蟬止んで季節色褪せたりし昼

■川柳

もうちょっとだけねと一緒に走ったね

それでもね相手にされない人もいる
焼肉のじゅうじゅういう音がうるさい

紫の髪の数えてる

シートレットサービスなら手を上げてくれ

果物屋で暴れすぎてスイカ割り

サッカーとクリケットならドッチする？

手を上げて答えてくださいわかるなら

もう1周だけしてからでも遅くないわ

フルーチェ主婦まで現れる始末

8月11日（月曜）分

■短歌

どこまでが境界線どこからが領域なのか紛争が起き

■俳句

夏雲を畳んで仕舞ひし姉さまの

■川柳

九段下で待ち合わせてもいいですか

胸の下で藏れてみてでもいいですか？

言う儘について行ってもいいですか

街灯を少し割ってもいいですか？

ラストチャンス半分もらつていいですか？

よくそんな今の今までまともかね？

ともかが身につけてた服じゃないかそれは

さようならとかそんな淡白なこと言うなよな

科学者と導つとそんなしつぺ返し

這いずり回るくらい簡単だよ

8月12日（火曜）分

■短歌

青いシャツ着ている人には赤いシャツ好きな人の気持ちわからぬ

■俳句

花火の日父残業で帰り来ず

■川柳

さすがにもう嫌になつてきた

泣き言を言う人になだけわかる嘘

汗かいてその場を乗り切れるだけ得た

晴れやかな君の笑顔の贈り物

裏ビデオ顔のお前の飼ひ猫の

許せないこともあるけど忘れよう

目を閉じればそのまま寝てしまふ

砂時計なんてロマンチックな人生だろう

雨が降ってどんどん蒸し暑くなっている

今日ならば俺しかないよ取つといて

世界一過激な夜になりました

8月13日（水曜）分

■短歌

やけくその日々がもうすぐ終わりますなせならちゃんと生きてゆくん

■俳句

■短歌

ギリギリスキミのきたるは上手くない

■川柳

君のこと抱いてみたいなお昼間に

アイス食べぶるぶる震える心持ち

唇が紫になるまで泳ぐ

さんさんな気持ちになつて汗をかき

どこまでが波でどこまでが砂

散歩するビクニックゆく手を繋ぐ

どきどきな時間に2人くっついて

あほらしいドラマ見るほど恋心

街角にふと足運ぶ風の音

水着着て水頬張り水かぶり

8月14日（木曜）分

■短歌

背中押す人がいっぱいいるならばそれはま

るで通勤電車

■俳句

夏の日のプールに裸体の浮かぶあり

■川柳

【秋の夜】

そんな事、意味知つてまじ、言うてるの？

夏の夜のその次の日に会いたくて

テント張るの手伝つてくれよ暇ならは

雨が降る僕の上にも君の上にも

センチメンタルな気持ちなが流れていく

ちつとも面白くないですね今夜

これ以上待つてられない焦り気味

太つたら秋の魚になりますよ

絶望の寒気団 エアロスミス

瓜実顔の見にくい女

8月15日（金曜）分

■短歌

街上で中国語を飛び交つて半世紀先の日本を思う

■俳句

プロムナード夾竹桃の枯れてあり

■川柳

ヘトヘトになるまで書いて書きましよ

僕のこと知らない人だと知つている？

発車しますなんて言うんじゃないよタモノ屋

そんな寺行つたつて今つまんない

容量の大きさをだけを目慢する

ちよつと今静観した方が良さそうね

崇禪寺つていう名前はとても恐ろしい

優勝旗雁首揃えて待つていろ

甲子園球場でやる深呼吸

8月16日(土曜)分

■短歌

ライオンとライオンのこの関係を3年後また話すとは

■俳句

松虫をひっくり返して祝宴

■川柳

ちよつとだけ感觸聞かせてくれるかな

それとなく後ろに回って背中掻く

行く未を楽しみにしたり恐れたり
墓参りに行くこうと楽しみに
踏切でいつまでも待っていて夜明け
普通人にはわからないことをやりたいね

舌打ちをする人だらけでうるさくて

どんな金の使い方してるんだ君
行きたくてもっと近くに行きたくて
入りたくてもっと奥まで入りたくて

8月17日(日曜)分

■短歌

路上にてタバコ吸うやつその指を二本二本ライターで焼く

■俳句

こんなところに隣接料理の看板

■川柳

徹底して突き詰めれば何か出てくるよ
お化けでも目でも多摩でもどこにでも
特急がまた来たね 乗ろうか 乗ろう

全然わかんねえというやつがいる 無責任
そりゃあそうそのあの借金はどうしたの?
スクーリングで学校の進行形?

足が棒になつたら怖いね
美しい素肌の人が歩いてる
笑顔だけ美しい人がいる
豆ご飯を炊くのは面倒くさい

8月18日(月曜)分

■短歌

サーフィンとサーファーとその車とのそれぞれの距離を瞬間に目抜く

■俳句

汝が庭のあんなカンナに魅せられて

■川柳

やる気出したら半分くらいはやれるものだ
その残りの半分が大変なのだ
事務制服を複製みたいにしてる人
江坂だとうもう江坂だとうおかしいぞう!
走るだけ走っておけば朝得た
ずる賢い奴らが町に溢れてる
スイカ割りスイカを切る方が好き
悠々とした様子で実は焦ってる
我が怒り君に属さず
十分だこまでくれば十分だ

8月19日(火曜)分

■短歌

こんなにも晴れた日になら我が企図も誰にも知らずれず実遂をする

■俳句

氷菓子胸一杯に抱えゆく

■川柳

全力を振り絞っても足りない日

きやあやばい言う人一番やばいです

まっさらの日傘を毎日使ってる

雨降らず人知らず恋知らず

どうでもいいという人のこと信じてる

シヤクナゲというあだ名ならどうですか

その店にヤクザのやつらが群れている

その周り醜い心の女あり

空高く舞いましたとか言ってるよ

同時刻 同時刻に俺 トイレ行く

8月20日(水曜)分

■短歌

掃き溜めの用にも見えてオークション解除に集う黒い人たち

■俳句

焼給り君の素肌に触れた午後

■川柳

アセベタの気持ちでずんずん前へ出る
弱点を狙って常に技を出す
サンマリノ聞きなれない手だ 注意しろ
アヴェマリア すき焼き た 歌破りされ
ジュウシマツ 何回買ってもいい します
プロレスラーに恋をした人はやばい
タイムズがやたらに増える街通り
軽やかなああ恋し かな恋路かな
自転車道の曲のり止めてよね
ゴミ箱でないです 恋文 入れないで

8月21日(木曜)分

■短歌

ぐんぐんと背が伸びてゆくその人の子供の背丈測りたしと思う

■俳句

星月夜君ばかり見ていたつね

■川柳

♫という言葉に心底惚れました
名前から笑うよ まるいクリニク
タクシード行ったら4倍かかります

歌はつかり歌ってる人歌手ですね!

嘘はつかり言ってる人だ詐欺ですね!

超お得だというのなら買ってくれ

僕のこと買ってもらったことありません

おまけするにもこれ以下ありません

いい年してリュックサックはやめなにか

高さ制限するより質制限してくれ

8月22日(金曜)分

■短歌

充実のパイプジュースの中にある繊維の感

触確かめており

■俳句

帝木を真似て浜辺の虫足め

■川柳

この速さで突っ切ったなら遅刻せじ
交差点はやばいな助かるぞ

まさか川柳を吹き込んでいるとは！

これ以上走ると息が止まります

息止めてそこから始める潜水だ

「茶なんてあけたもん飲むな

赤信号だけと横は青信号

雨降ってないのに傘さす人がいる

怪力レスラーって一体何だったんでしょね

過激なロックって一体何だったんでしょね

8月23日（土曜）分

■短歌

暑い人日と暑くない日の合いの子に我佇み

て日々を過ぐせり

■俳句

朝顔の咲き忘れたり軒の下

■川柳

山岡ゆうほご面白いやつはいない

彼をそのかして本を作った

これが俺の功績の1つになるだろう

随分と行きたいように生きてきた

想像力はないからがむしやりに書いた

アスファルトの上を歩くと暑い

暑いけれども歩けないわけではない

歩けないわけではないがフラフラになる

フラフラになるがそれなりに楽しい

楽しければいいじゃないか生きている意味だ

8月24日（日曜）分

■短歌

遠のいた栄光の日の代替にエベレスト登頂などを試み

■俳句

萩の穂を取り替えし子のありやなしや

■川柳

会議の時間が迫っているのにこんなに呑気だ

納期こそ生きていることの魂の本質の言葉だ

はみ出してくる言葉の数の余分なところに意味があるのだ

もう部屋の中には戻れないかもなんて外に行く時は思ってもんだ

同じように愛情 沖縄に行ったことのない沖縄に

さあここから勝負だという気がするぞ俺

どんなものでもダイナマイトで飛ばすような気分になるんだ

さあ笑っちゃおうよ

真剣に生きていれば背がまだ伸びるかもし

れない

ビルディングの上から誰かが呼んでいるそつちを向く

8月25日（月曜）分

■短歌

イケてないあんたとあんたの愛人と一緒に飲む酒は高級酒

■俳句

手を出せばやがて悪む残暑かな

ほおずきを大喜びで荷に詰めて

■川柳

「トスマホに打ち込むと急いで打ち込む時に限って」と出る

充実した人生だったなんて言ってみたいけど言わないだろう

どこから川柳からはみ出してしまったがこれがとても心地いい

川柳と短詩の違いを誰か教えてくれとは言わないよ

何年か前アフォーリズムをかけと俺に教えてくれたやつがいた

い

くしゃみなのか犬の鳴き声なのかわからな

大きなスーツを引っ張るヨーロッパ系の美女がいる

それがどうした俺はアジア人だ

ネパールのことを思うネパールのことを思うネパールのことを思う
道で挨拶をしているじいさんとはあきさんがいる

8月26日（火曜）分

■短歌

さわやかな思い出ばかり描き切る能天気國家の脳の中身よ

■俳句

とろろ飯詰め替え用の礼儀知り

■川柳

そうかあまりにも暑すぎるからはみ出しちまったんだ

その時はクーラーでぐつと冷やすと凝縮するかもしれない

そんなわけではない一旦ふやけたものは元に戻らないのだ

ぼやけたものが悪いというわけではないいいわけでもない別物だ

自由だ何をしても自由だからそれが川柳だということにしよう

俺ほどに強い精神を持ってないこんな川柳はかけるもんじゃないな

気弱にウインカーんか出しやがってそんなことをしてるから気弱な

んだ

できるだけ到着するまでにやりきってしまいたいけれどそんな目標

を立てても何にもならないということほど到底自分でもお見通じじゃ

ないかそれなのに何でそんな目標を立てるんだ

できましたらこの辺でとか言ってみたいけどできませんからそうい

うことは言えないんだね

8月27日（水曜）分

■短歌

